

「災害時における聴覚障がい者への情報伝達について」を質問!! 一つづきー

問い

遠隔手話通訳システム関係で以前同僚議員が質問した窓口へのタブレット導入は。タブレットを避難所を持ち込めば、派遣通訳がなくても大変助かるが。

答え

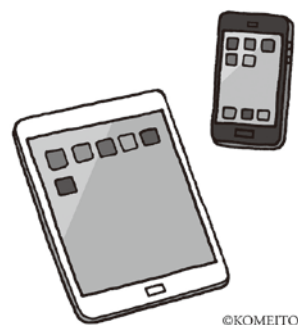
その後まだ整備には至っていない。まずはすぐにできるということで、先ほどのコミュニケーションボードを設置した。

問い

スマホでもできるが、機種によってはだめでブラウザも限定されている。スマホだと小さくて手話が見えないので、画面の大きいタブレットを町で準備してもらえるとありがたいが検討は。

答え

タブレットを全く検討しないということではない。まずはできることからで、引き続きタブレット導入については、研究をしていく。



問い

県聴覚障害者協会では、災害に備えての聴覚障がい者とのコミュニケーションの取り方等に関する出前講座として「共生社会実現のための手話講座」を実施している。この講座を町内で開催できないか。台風19号災害時に健常者の近隣の方と避難所へ避難していた聴覚障がい者の方がおにぎり配布や生活用品配布の情報が一切入らず苦労された。

その時に通訳者がいなくても周りの方で手話が少し出来ただけでも心が救われたと思う。もちろん筆記やスマホに文字を入れて会話はできるが、緊急を要する事もある。災害時例えば「逃げて下さい」などの手話があるが、手話講座を開けば、災害時活用の手話ガイドブックが手に入る。

この講座は大変人気があり、既に県予算は終わっているので、今年度もし開催となれば、町負担が生じる。来年度なら、県予算で可能なので、早めに申し込み、是非災害をきっかけに手話講座を行ってはどうか。

答え

県が聴覚障害者協会と契約して行っている講座は年50回あり、今年度分は終了しているので、次年度開催を検討する。

また、佐久保健福祉事務所で個別に災害に特化した講習を行うことができる。災害時の聴覚障がい者との意思疎通は重要な課題なので、まず災害時に身近で対応する者として民生福祉児童委員協議会において、今年度中に講習を行えるよう検討している。

今後は、町職員、町議会議員、自主防災組織、町民へ対象を拡大して講習を行うよう検討していく。



川島から一言

コロナ禍において、マスクをかけることになり、聴覚障がい者の方にとって、口の動きがわからず、手話に頼らざるを得ません。

又、私達も高齢になれば難聴という病気なる可能性もあります。

健常な状態から後発的になりますので、今まで聞こえていた世界が閉ざされてしまい、周囲とのコミュニケーションが出来ず戸惑っていらっしゃる方も実際にお見受け致します。

コロナ禍という事でソーシャルディスタンスをとらなければならず、ましてやマスクをかけているので聴き取りにくいという事もあります。手話は、見えていれば遠くの方とも会話が出来ます。

今後、益々、軽井沢町が、手話を言語として認め、少しでも多くの方が使い話せる事を切に願います。



手話